

<卒業生に向けての話>

みなさんは、この漢字を知っていますね？

音読みでは「せい」とか「しょう」とかと読み、「生命」「誕生」などの熟語で使われます。訓読みでは「生きる」と読み、命という意味もあります。

英語に直すと Live と書き、生きるという意味の時は「リヴ」、命という意味の時は「ライヴ」と読みます。

では、この漢字はどうでしょう？ 卍が付きます。卍は心という意味があります。つまり「ここで生きる」という意味合いがあると思っています。これも「せい」「しょう」などと読み、「性別」「心配性」などの熟語で使われます。

英語に直すと多くは SEX と書き「セックス」と読みます。

この言葉を聞いて皆さんは何を思いますか？ 今、ニヤニヤした顔をしている人。一度心をリセットして真剣に聞いてください。

先生は今から、保健体育の先生として、真剣に性の話をしたいと思っています。

みなさんは思春期真っ只中。性に関する興味・関心がとても高いと思います。でもそれは正常な成長だと思っています。

でも、みなさんの周りには間違った情報やゆがんだ情報が溢れていることに気づいたり理解できたりしているのでしょうか。雑誌の投稿欄には、あたかもほとんどの中学生がセックスをしているかのような文章が掲載されていることがあります。また、スマホやパソコンで検索をすれば、皆さんの興味をかき立てるようなとても怪しいサイトがたくさんあります。

「セックスをしてみたい」と思うことと、実際に行為に及んでしまうということには、大きなちがひがあります。

セックスとは命と結び付く行為です。また、漢字にもあるようにそこには「こころ」があるべき行為だと思っています。先生もそうですが、皆さんの命は、お父さんとお母さんの愛しあうという「こころ」があつての行為で誕生しました。そして今まで大事に育ててもらっているからここに存在します。とても幸せな命ですね。

もし、皆さんのような心も体も成長過程にある未熟な状態で、興味本位でセックスに及んで、命が誕生したらどうなるでしょうか。

二人の間に「愛し合う」気持ちがないのに、できてしまった命。どうしますか。まず、「産む」か「産まないか」の選択を迫られるでしょう。

「産まない」という選択をした場合、人工的に赤ちゃんを殺す「人工妊娠中絶」をするということになります。経済的にも負担がかかり、特に女の子は、肉体的にも精神的にもとても大きな傷を負うことになります。もしかしたら、今後子どもができにくい体になってしまうこともあります。また、「赤ちゃんを殺してしまった」という罪の意識で長い間苦しむことにもなります。男の子は、その女の子の心や体に大きな傷を負わせたところを、どうやって償うのでしょうか。

「産む」という選択をした場合、女の子は高校生の状態で子どもを産むことはできませんので、高校を中退せざるを得ないでしょう。そして、子どもを産むということは体に大きな負担を強いることになります。また、子どもは産むだけでなく育てていかなければならないので、経済的なことも考えると、当然男の子の方もせっかく合格した高校を辞めて働かなければならないでしょう。

共に夢や進路を諦めて、子どもを育てていかなければなりません。様々なことを犠牲にして育てられる子ども。ましてや、両親に愛し合う気持ちがないまま、誕生し育てられる子どもは、本当に幸せなのでしょう。

一時の感情でセックスに走ることのリスクを、しっかりと考えて欲しいと思います。「避妊をすれば大丈夫」と思っている人もいると思いますが、残念ながら100%確実な避妊は、手術などをの方法をとらなければなりません。

また、興味本位でセックスを考えている皆さんは、その行為を自分の大切な人が他の誰かにされたとしたら、どうでしょうか。例えば自分の妹が誰かに無理矢理セックスされたとしたら……。

先生は、セックスというハードルは誰もが越えるものだと思います。ただ、大事なものはその「越え方」です。

自分自身を、そして相手を大事にせず、欲望だけで間違った越え方をすれば、性犯罪の加害者や反対に被害者にもなってしまいます。

先生は、弥富中学校が大好きです。そして、ここにいるみんなのことも大好きでとても大切に思っています。ここにいる皆さんの中から、性犯罪の加害者や被害者が出ることは、決してあってはならないと思っています。そのために、今真剣に話をしているのです。

セックスというハードルは、将来心から愛する人に出会い、誕生するかもしれない命に、お互いに責任をきちんととれるようになったときに超えても、決して遅くはないと思います。

性を真剣に考え、大切にすることは、字のとおり心を大切にして生きることだと思います。

皆さんの前には、大きな未来が広がっています。無限の可能性があります。その未来を、可能性を、一時の感情に流されたことでなくしてしまうことがないように、一人一人が「性」を大切に、心を大切に、自分を大切に生きて欲しいと心から願っています。

先生は、昨年6月に娘が男の子を出産し、12月には息子の子どもが生まれ、二人の孫に恵まれました。命は本当に繋がっているということを実感して、とても幸せです。

みなさんも、自分を大切に、命を大切に、人を大切にしながら大人になってください。そして、幸せになってください。